

# 年報

2022 年度

筑波大学大学院 人間総合科学学術院  
人間総合科学研究群 看護科学学位プログラム

## 目次

I. 看護科学学位プログラムの組織運営 .....	1
1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標 .....	1
2. 看護科学学位プログラムの沿革 .....	3
3. 看護科学学位プログラムの組織 .....	6
4. 看護科学学位プログラムの施設・設備 .....	12
II. 教育活動 .....	14
1. 教育内容及び方法 .....	14
2. 自発的な教育活動 .....	15
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム .....	15
4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制 .....	18
III. 研究活動 .....	20
1. 教員・学生の個人業績 .....	20
IV. 大学院生支援 .....	42
1. 学生数の状況 .....	42
2. 大学院生支援委員会の活動 .....	42
3. 今後の課題 .....	45
V. 社会貢献と国際交流 .....	47

# I. 看護科学学位プログラムの組織運営

## 1. 看護科学学位プログラムの目的、教育目標

### 1) 看護科学学位プログラム博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学学位プログラム博士前期課程では、学際的及び国際的な視点に基づき、看護を科学的に探究する人材を育成することを目的とします。博士前期課程では科学的な根拠に基づいて看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を目指す学生および看護の実践能力および高度な専門性を有する看護の高度専門職業人を目指す学生を求めています。

看護科学学位プログラム博士後期課程では、看護学の高度専門職者・管理者、教育者・、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる能力を育成します。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる能力を育成します。博士前期課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、さらに次代に向けて必要となる新たな知識の創造と、技術開発の基礎研究者となる教育・研究方法などについて体系化できる力を備えようとする教育者・研究者、あるいは、看護科学の基礎的な能力を修めた者で、実践と理論の架け橋となるための高度専門看護者・管理者、行政官を目指そうとする者を求めています。

### 2) 看護科学学位プログラム博士前期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士前期課程では、教育目的を達成するために、修了後の進路に対応した以下のプログラムを設定します：①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラム。

博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護科学の領域で、

社会的学術的意義が高く、看護科学の発展に寄与できる研究を実践できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって看護を実践・教育する能力
- ③ 看護を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく看護の実践能力
- ⑤ 国際的な看護実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の看護研究の成果を自らの実践に活かす能力

専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、看護分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的な根拠に基づいて看護を探究し、実践する能力
- ② 看護実践における高度な専門的知識・技術・実践能力
- ③ 学際的な視点で看護を科学的に分析する能力
- ④ 国際水準の看護実践を志向できる能力

高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムでは、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえ、助産学分野における高度専門職業人として十分な教育・実践能力を身に付けられるよう、特以下の能力を育成します。

- ① 科学的根拠に基づいて助産を探究し、実践する能力
- ② 看護科学の基礎になる専門知識と技術をもって助産を研究・実践する能力
- ③ 助産を学際的な視点から科学的に分析する能力
- ④ 豊かな感性と確かな倫理観に基づく助産の実践能力
- ⑤ 国際的な助産実践を志向する能力
- ⑥ 国際水準の助産研究の成果を自らの実践に活かす能力

### 3) 看護科学学位プログラム博士後期課程の特色と教育目標

看護科学学位プログラム博士後期課程では、教育目的を達成するために、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を踏まえて、看護科学の領域において博士の学位に相応しいだけの新規性、独創性と十分な学術的価値のある学位論文を提出できるよう、以下の能力を育成します。

- ① 看護実践の基盤になる科学的根拠を創出する研究能力
- ② 看護に関する高度な知識と技術力
- ③ 高度専門職者としての実践知に基づく教育・研究能力
- ④ 確かな倫理観と価値基準に裏付けられた研究能力
- ⑤ 国際水準の研究能力

## 2. 看護科学学位プログラムの沿革

### 1) 博士前期課程の沿革

平成15年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として4年制大学になりました。平成18年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成19年4月に人間総合科学研究科に設置されました。

社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神文化的の3側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の3領域で教育が始まりました。

看護においては人々のQOLの向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求

められ、平成22年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成23年度には「がん看護」「精神看護」、平成24年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的に e-learning を導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。また、平成23年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の3領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の2領域に再編しました。平成26年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の4分野において専門看護師教育課程(38単位)の認定を受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)助産師養成教育を提供しています。

平成29年度には、前期課程内に、修了後の進路に対応したプログラム:①博士後期課程への進学に向けて研究基礎力を育成する看護科学プログラム、②専門看護師としての臨床実践能力を育成する高度実践看護プログラム、③高度な教育・実践能力を持つ助産師を育成する助産学プログラムを設定し、運営を開始しています。令和元年度から1科目あたりの受講者数を増やし、学習の充実を図るため「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の2領域をなくし、看護科学として1つの専門領域にしました。

#### 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムへの改変

令和2年度に筑波大学では大学院改革が行われ、8研究科、85専攻であった大学院は、3学術院、6研究群、56学位プログラムより成る大学院に改変されました。人間総合科学研究科 看護科学専攻は、人間総合科学学術院 人間総合科学研究群 看護科学学位プログラムとなりました。再編の目的は、各研究群では専任の教員を中心とした幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムの授業と

研究指導を行うことにあります。また、学位授与時に学生が備えるべき知識・能力（コンピテンス）を、全額で共通の汎用カコンピテンスと、各学位プログラムに特有の専門カコンピテンスの双方から明確化し、その修得に向けた教育課程を編成しました。学生の達成度評価にあたっては、学会発表や論文作成、TA の経験やボランティア活動を含め、授業以外の活動も積極的に評価します。また学生が修了するまでに汎用カコンピテンスと専門カコンピテンスを修得できるよう、きめ細かな学修支援を行うことになりました。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、春学期は教育活動が制限されましたが、秋学期からは対面、オンラインを含めたハイブリッドの授業を行い充実させることができました。

看護科学専攻は、令和2年度までに博士前期課程 188 名の学生を修了させました。看護科学学位プログラムとなった令和3年度は、新たに11名の学生が、令和4年度には11名の学生が修了しました。看護科学専攻は、令和4年度に修了生1名を輩出することにより、教育課程16年間の幕を閉じました。修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍し、成果をあげています。またこれまでに21名の修了生が専門看護師試験に合格しています。

## 2) 博士後期課程の沿革

国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成13年に「人間総合科学研究科」が開設され、この人間総合科学研究科に平成19年4月に看護科学専攻博士前期課程が、前期課程の開設に引き続き、平成21年4月に看護科学専攻博士後期課程が誕生しました。平成26年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

令和2年度に行われた筑波大学大学院改革により、博士後期課程においても令和2年度より看護科学学位プログラムの入学生の受け入れを開始しました。

本専攻は平成25年度3月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。博士(看護科学)の授与は、2名の論文博士を含め、令和4年度3月ま

でに計 46 名となり、日本のさまざまな保健分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

### 3. 看護科学学位プログラムの組織

#### 1) 教務委員会

履修・渉外(担当:大宮、岡山、岩田、涌水、福澤)

1. COVID-19 感染拡大に伴うカリキュラム・時間割・実習の調整
2. R4 年度科目一覧の管理、R5 年度科目一覧作成依頼
3. R4 年度時間割作成
4. R4 年度シラバスの管理、R5 年度シラバスの作成依頼
5. R4 年度大学院便覧・大学院スタンダードの確認
6. R4 年度既修得単位認定(なし)・学籍管理(副指導教員変更、研究生等)
7. R5 年度用学群生、科目等履修生一覧の管理
8. R4 年度修了認定(前期・後期)用資料の作成
9. 協力教員、非常勤講師、ゲストスピーカーに係る調整
10. 在校生オリエンテーションの企画・実施
11. インターンシップ、看護科学特別実習、CNS、助産実習、INFOSS 受講状況の確認・管理

審査(担当:日高、目、菅谷)

1. COVID-19 感染拡大に伴う審査体制の調整・会場運営
2. R4 年度研究計画書(前期・後期)審査委員会案の作成
3. R4 年度予備審査委員会(前期・後期)案の作成
4. R4 年度論文審査委員会(前期・後期)案の作成
5. R4 年度研究計画書(前期・後期)審査会・発表会の実施
6. R4 年度修士論文発表会(前期)の運営
7. R4 年度研究計画書(前期・後期)審査報告書の確認
8. R4 年度予備審査報告書(前期・後期)の確認

9. R4 年度論文審査報告書(前期・後期)の確認
10. 組織変更(学位プログラム化)に伴う審査に係る提出書類の改定
11. R5 年度審査スケジュール(前期・後期)案の作成

## 2)入試委員会

令和 4 年度の入試委員会の活動は、博士前期課程、博士後期課程の入学試験の実施とそれに伴う各種業務を遂行した。本専攻の入試実施体制のなかで、出題ミス予防に向けた基準等を遵守し、適正かつ公正である入学試験となるよう入学試験を実施した。

令和 5 年度入試は、本学の Web サイトに掲載している「新型コロナウイルス等の感染拡大防止に係る受験生の留意事項」及び「健康観察記録表(大学院入試用)により、受験当日を含めた 14 日間の検温等を毎日記録した上で、それらの書面を試験場に持参してもらい、発熱等の状況を確認したうえで入学試験を行った。14 日間の健康観察のなかで発熱・咳嗽等の症状があった場合には試験場での受験は実施できないため、受験者が追試験願いを申請し、許可が得られた場合にはオンラインで追試験を行った。入学試験の実施状況は以下の表のとおりである。

### < 令和 5 年度入学試験の実施状況 >

令和 5 年度入学試験は、8 月期に本試験とオンラインでの追試験、2 月期に本試験を実施した。

#### ● 博士前期課程

8 月期入試 筆記試験 令和 4 年 8 月 30 日、口述試験 8 月 31 日

追試験 筆記試験、口述試験 令和 4 年 9 月 2 日

2 月期入試 筆記試験、口述試験 令和 5 年 1 月 31 日

			志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (15名)	8月期入試	一般	17	16	12	0
		社会人	1	1	0	0
	2月期入試	一般	3	3	1	0
		社会人	0	0	0	0

● 博士後期課程

8月期入試 筆記試験 令和4年8月30日、口述試験 8月30日

追試験 筆記試験、口述試験 令和4年9月2日

2月期入試 筆記試験、口述試験 令和5年1月31日

		志願者数	受験者数	合格者数	外国人留学生内合格者数
募集人員 (8名)	8月期入試	6	6	5	0
	2月期入試	4	3	2	1

<その他の活動>

- ・留学を希望する外国人には、オンラインに於いて積極的に事前面接を実施した

<次年度に向けた課題>

博士前期課程、後期課程ともに募集人員に満たないため、次年度は受験者数の増加に向けて、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて積極的に広報を行うことにより、看護科学学位プログラムのアドミッション・ポリシーに見合う志願者を集めることとする。博士前期課程では、本学の看護学類生の進学者数の増加を目的に、有効な広報活動等について検討する必要がある。また、博士後期課程では、研究者、教育者や高度看護実践者の育成を目的に、本学博士前期課程からの進学者を推奨するとともに、広報活動等についても検討したい。

### 3) 広報・情報委員会

#### ■今年度の活動目標

看護科学学位プログラムの入試について、ポスター、パンフレット、Web ページを通じて広報を展開する。

看護科学学位プログラム関係者(授業担当教員および学生)の Web ページを通じての情報活用を支援する。

#### ■活動状況

##### <看護科学学位プログラムホームページの更新>

ホームページ(HP)日本語版および英語版の一部内容を修正し、外部者用・内部者用にそれぞれ内容を精査し、携帯端末でも見やすくなるように業者に依頼し更新した。

##### <入試説明会の開催>

令和4年度看護科学学位プログラム入試説明会を2022年6月24日に開催した。参加者数合計は64名、うち学類3年生除いた合計は39名だった。参加者の所属は、社会人10名、学類3年生25名、学類4年生16名、大学院修士学生2名、学生(他大学等)10名、その他1名だった。カリキュラムの説明、助産師要請の説明、入試に関する説明のほか、各研究室の紹介を時勢を鑑みて手短に行った。

説明会で実施しているアンケートで尋ねた入試説明会に関する情報の入手方法(重複回答可)では、「教員からの情報提供」37件、「ホームページ」27件、「メーリスからの情報提供」16件、「ポスター」10件、「友人・知人・先輩からの情報提供」8件だった。受験に際し参考になった項目(重複回答可)では、「在校生のメッセージ」50件、「研究領域紹介」41件、「入試に関する説明」36件、「助産師コースの説明」22件、「長期履修制度の説明」13件が挙げられた。

#### ■目標の達成度、次年度に向けた課題

次年度以降もオンラインでの入試説明会の開催が想定されるのであれば、例

年受験生の関心が比較的高いのが在校生メッセージであるので、企画内容は継続していくのがよいと考えられる。また、看護学類からの進学希望者を積極的に開拓するために、指導教員の顔が見える口コミによる広報活動を各教員が地道に行っていくことが効果的であると思われる。

#### ■目標の達成度、次年度に向けた課題

学外への有効的な情報発信をおこなうため、引き続きHPの充実を図っていく。同時に看護学類の優秀な卒業生を確保し続けられるよう、各教員が内部学類生への勧誘と広報を強化していく。

入試に関しては、次年度も事前予告情報を早めに流していく。在学生確保の重要度は高いので、定期的に在学生のメーリングリストにも働きかけていく。

#### 4)FD・自己点検評価委員会

本学位プログラムにおけるFD活動は、先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外との学術協定校等との交流を通して、教員の教育力の向上と先進の取り組みを学ぶことにある。また、近年の組織構成員の再編成に伴い、教育・研究活動のリンケージ及び優れた研究成果の発信、より発展的な組織運営が喫緊の課題であると考えられる。

令和4年度は、少数精鋭の教員が卓越した研究・教育活動を行っていくために、レジリエントな組織について教員全体が学び、より良い研究グループの運営や大学院生指導とコミュニケーション活性化を目指して、3回シリーズのFD活動を行った。

第1回目は、医学医療系の松崎一葉教授を講師として、レジリエントな組織作りに関する最新の知見を踏まえ、限られた教員リソースで教育効果を上げる方法について講義とディスカッションを行った。第2回目は、1回目で学んだ知識を実際に活かしていくために、医学医療系の笹原信一朗准教授によるセミナーを行い、続いて教員間におけるゆるやかなコミュニケーションの活性化を目的としたグループディスカッション(演習)を実施した。第3回目は、1回目、2回目のアンケートに寄せられた質問や疑問について、各担当講師からの講義と、さらなるコミュニケー

ションの活性化と将来像の追求と共有化をねらった教員間ダイアログ(対話演習)を行った。今後も、より一層の組織構成員メンバーの結束の強化や、組織としてのビジョンとミッションの定着を狙う。

授業評価に関しては、全学共通の TWINS を用いたオンラインで全科目において実施し、学生からの評価を教員にフィードバックしている。また学生からの評価を元に、カリキュラムや授業内容の検討を行い、いくつかの科目内容の改善や開講時期変更に向けての検討も実施している。

COVID-19 による渡航制限等の解除も進む中、積極的に海外の提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるような FD 活動の企画運営を進めていく。

#### 5) ICT・国際活動委員会

令和4年度も新型コロナウイルス感染症による海外渡航の制限が国際活動に影響したことは否めませんでした。しかし、年度の後半では海外渡航制限の緩和が実施され、国際交流も少しずつ再開された。オンライン会議システムの充実やその活用の日常化も進み、本学でも ICT を活用した e-learning、国際セミナーなども開催された。看護科学学位プログラムでも ICT を用いた FD 活動がアジア圏と活発に行なわれた。

今年度は3回のオンラインでのカンファレンスを実施した。また、国際活動として台湾国立成功大学とのコラボレーションによる TGSW(TSUKUBA Global Science Week)の企画で「Aging Society and Elderly Care in Taiwan and Japan」というテーマで日本と台湾両国が直面している社会的課題について学び意見交換が出来たことは意義深かった。また、本学の大学院生、教員が海外の大学(タマサート大学(タイ)、慈済大学(台湾)とのオンラインカンファレンスで招聘プレゼンテーションを行うなど、海外の大学からの要請を受けて大学院生や教員が国際的な学術活動に参加する機会を創出した。

今後国際的な交流が正常化していくことが期待されることから、来年度は実際に対面での学術交流を行なう機会を設けていくと共に、ICT を活用した国際活動

の促進も図りたい。

(以下実施した企画)

2022年04月29日(金)

The 2022 Health Diversity Symposium: Health Disparities among Sexual and Gender Minority Population: Asian Perspective

2022年07月02日(土)

Challenges and Opportunities of Nursing Education and Practice during Pandemic

2022年09月29日(木)

ICT 国際活動委員会国際セミナー(看護科学学位プログラム FD 委員会共催 TGSW)

Aging Society and Elderly Care in Taiwan and Japan

#### 4. 看護科学学位プログラムの施設・設備

##### 1) 施設設備委員会

施設・設備委員会は、4B棟、共同利用棟Bおよび健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営、会議室やセミナー室など専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標として活動している。

##### ■本年度の施設・設備の整備状況

看護科学学位プログラム大学院生および教員に関連する医学医療系の取り組みとして以下のものがあげられる。

1. 研究室について、使用状況、院生数等を考慮した配置・運営の見直し、整備を行った。

##### ■今後の課題

1. 附属病院B棟の耐震改修工事が始まり、2023年10月までかかる予定になっている。それに関連して、附属病院への動線が何度か制限・変更され

る見込みであるので引き続き注意を呼び掛けていく。

2. 4D 棟及び 4C 棟の耐用年数は 20 年程度のため、2024 年、2026 年には使用することが難しくなることが考えられ、引き続き検討されることになっている。
3. セミナー室など予約スペースの適正な利用を促進し、看護科学学位プログラムの教育・研究環境が安全に保ち充実するよう努める。
4. 共同利用棟 B 講義室の椅子や机等消耗品の老朽化が進んでいるため、適宜交換等引き続き行っていく。

## Ⅱ. 教育活動

### 1. 教育内容及び方法

R3年4月より、改組前の看護科学専攻を母体とした「看護科学学位プログラム」が開設され、その教育理念のもとに組み立てられたカリキュラムを実施した。学位は、当該専攻で授与している「看護科学」を引き継いだ。

本学位プログラム(博士前期課程)では、看護科学の領域で扱われる課題で研究を行う研究者の養成を目指している。また、高度専門職者の養成課程として、助産師養成課程と専門看護師養成課程を提供し、後者は次年度で10年間の認定有効期間が満期を迎える。いずれの課程でも科学的根拠に基づいた探究力、専門領域における実践力、看護の学際性、看護の感性与倫理観、国際通用性を目指す実践力を学生に修得させることで、看護実践の基礎になる専門知識・技術・実践能力を備えた看護職者を養成している。学生の達成度は、修士論文あるいは特定の課題研究(看護実践に活用できるエビデンスについての検討、あるいは、エビデンスに基づいた実践内容の評価について、研究として系統的にまとめられた成果物)によって最終的に評価している。

本学位プログラム(博士後期課程)では、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる人材を、さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる人材を、養成している。

カリキュラムの詳細は、授業科目一覧と各科目のシラバスを参照

## 2. 自発的な教育活動

## 3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

＜本年度の学位論文のテーマ＞

### 看護科学専攻博士後期課程

#### **田野 将尊**

実行機能向上を目指す看護プログラムの再入院中の統合失調症者に対する  
実行可能性の検討

#### **Munguntuul Enkhbat**

Knowledge, Attitude and Practice (KAP) and compliance of handwashing  
among elementary schoolchildren in an urban setting, Mongolia: a  
school-based cross-sectional study (モンゴル都市部の小学生の手洗い  
についての知識、態度、実践、およびコンプライアンスについての横断研究)

### 看護科学専攻博士前期課程

#### **丸山 直美**

がん診療連携拠点病院の外来看護師のコミュニケーションスキルと高齢がん  
患者に対する治療意思決定支援との関連

### 看護科学学位プログラム博士前期課程

#### **宇佐美 絵理**

生後 3～4 か月児を持つ日本人父親における仕事と家庭の両立に対する認  
知及び葛藤が抑うつ傾向に及ぼす影響の検討

#### **加固 蒼一郎**

在日モンゴル人児童の問題行動・向社会性に対する親の認識と関連要因一  
子どもの強みと困難さアンケート(SDQ)による検討一

#### **葛谷 英寛**

大学生のヘルスリテラシーと健康行動との関連

**佐々木 啓太**

The Quality of Discharge Teaching Scale:QDTS 日本語版の作成及び信頼性・妥当性の検討

**塩見 咲良**

妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析—ヒール高による比較—

**饒 小妹**

食事動作時における筋活動量・頸部角度と主観評価の関連 —利き手と非利き手の比較—

**古田 敦子**

病棟に勤務する看護師のアドバンス・ケア・プランニングに対する役割認識に影響を与える要因

**宮崎 星**

パンデミック禍における保健所保健師の経験とレジリエンスの実態及びそれらがバーンアウトに及ぼす影響

**矢ヶ部 未奈**

大学生における摂食障害傾向の関連要因

**吉本 光希**

NICU・GCU 病棟におけるプライバシーに関する看護師の認識

<FD 活動実績と今後の課題>

第1回 10月18日(火)17:00~18:30

タイトル:レジリエントな組織とマネジメント

レジリエンス(逆境からの回復力)を身に着ける「試練と支援」の構造から考える「教育」

概要:昨今の職場のメンタルヘルス問題においては、経営環境のめまぐるしい変化のなかで多様な問題に対応できるレジリエントな組織づくりが注目されている。第一回目は、レジリエントな組織を作るために重要な概念とし

て、1. 冗長性 2. 多様性 3. 適応性 について考える。また、現代の教育においては、「試練と支援」の構造が重要で、現代の学生気質を踏まえた上で、限られた教員リソースで効果的な教育成果をあげる方策について検討する。

講師：松崎 一葉先生（筑波大学医学医療系 産業精神医学・宇宙航空精神医学 教授）

会場：Zoom を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信あり

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

#### 第 2 回 2023 年 11 月 9 日(水)17:00～18:30

タイトル：職場におけるレジリエンスを高める工夫～サルトジェニック・カフェを応用する～

概要：第一回で学んだレジリエントな組織を作るための知識を実際に活かして行くために、今の職場において現実的に何が出来るのかを、それぞれの経験を持ち寄り具体的な対処方法について学び合い、明日からの実践に活かせる内容を検討する。

講師：笹原信一郎 先生（筑波大学医学医療 産業精神医学・宇宙航空精神医学 准教授）

会場：Zoom を用いた遠隔配信、その後のビデオ配信あり

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

#### 第 3 回 2023 年 2 月 22 日(水)16:00～17:30

タイトル：アクティブラーニングを実践するための課題

概要：第 1 回と第 2 回のレジリエントな組織を作るための FD を通しての振り返りを、話すことに集中するターンと聴くことに集中するターンに分けて、看護学系の今後のより良い工夫について対話を重ねることで、多様な声を響かせて行きます。話したくないことを無理に話す必要はありませんので、安

心してぜひ対面でご参加ください。

参加者：看護科学学位プログラム教員、看護学類教員

会場：共同利用棟2F 講義室 B(対面)

主催：看護科学学位プログラム 共催：看護学類

次世代看護に向けた組織作りには一定の時間をかけて丁寧に行うことが重要であるとして、令和5年度も引き続き同様のテーマで開催し、ビジョンとミッションの定着を狙う。今後も、組織力および教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。授業評価に関しては、本年度からはTWINSを用いたオンラインでの実施とした。全科目において実施しており、学生からの評価を分析することができた。

今後も、積極的に海外との提携大学ともつながりを深めていくとともに、教員の教育力の向上につながるようなFD活動の企画運営を進めていくことが課題である。

#### 4. 大学院教務・看護科学事務の支援体制

看護科学専攻・学位プログラムは、大学院教務ならびに看護科学事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

＜大学院教務の学生に関する主な支援業務＞

1. 看護科学学位プログラムの入学試験
2. 学位記授与式,新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生,研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係
9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係

11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

<看護科学事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受け取り
4. 郵便物の配布
5. 教室予約受付・管理(共同利用棟 B103・106・107・204・205・206・207)
6. ロッカーキーの貸出・管理
7. 印刷機、備品、消耗品(トナー・インク等)の管理
8. TA 任用に関する手続き・管理
9. 学外実習に関する手続き・管理
10. 一斉メールの配信:主に大学院教務,学生支援からの依頼による学生への配信
11. 各発表会、審査会サポート
12. 入試の準備・手伝い
13. 学位記授与式の準備・手伝い
14. 予算管理
15. 看護科学学位プログラム HP 管理補助

### Ⅲ. 研究活動

#### 1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

#### A. ウィメンズヘルス看護学・助産学研究グループ

■教授 岡山久代

■准教授 岩田裕子

■助教 金澤悠喜

#### □看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 海野多栄子

<学会発表>

- 1) 野口百菜, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 内藤紀代子, 海野多栄子, 寺澤瑛利子, 岡山久代(2022). 異なる機種スマートウォッチが算出する活動データの比較とそれぞれの特徴. 第10回看護理工学会学術集会. 東京, 日本.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 海野多栄子. (分担者: 岡山久代, 浅野美礼). 2022~2024年度, 基盤研究C. 乳児を育てている母親のストレス反応の可視化 -短期的・長期的心拍変動による評価-.

#### □看護科学学位プログラム 博士後期課程 3年 今野和穂

<学会発表>

- 1) 寺澤瑛利子, 浅野美礼, 塩見咲良, 今野和穂, 青木真希子, 所恭子, 龜山千里, 岡山久代(2022). スマートウォッチの光学脈波測定による心拍数の妥当性の検討. 第10回看護理工学会学術集会. 東京, 日本.

<研修会の講演>

- 1) 今野和穂(2022). 日本更年期と加齢のヘルスケア学会 オンライン研修

会 基礎からわかる更年期「女性の内分泌と解剖」

< 社会活動 >

- 1) 東京都中央区健康チェック ママの健康チェック プレ更年期担当

< 公的な委員会 >

- 1) 更年期と加齢のヘルスケア学会幹事

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 壹岐聡恵

< 学会発表 >

- 1) Iki, S., Okayama, H.(2023). Support for siblings of preterm infants in the NICU: Current situation and family needs. The 19th World Congress on Human Reproduction. Venice, Italy.
- 2) Terasawa, E., Asano, Y., Noguchi, M., Iki, S., Okayama, H.(2023). Comparison of the stress indices calculated by two models of smartwatches and examination of their validity. 19th World congress on Human Reproduction, Venice, Italy.
- 3) 野口百菜, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 内藤紀代子, 海野多栄子, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2022). 異なる機種スマートウォッチが算出する活動データの比較とそれぞれの特徴. 第10回看護理工学会学術集会. 東京, 日本.

< その他 >

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 寺澤瑛利子

< 学会発表 >

- 1) 寺澤瑛利子, 浅野美礼, 塩見咲良, 今野和穂, 青木真希子, 所恭子, 龜山千里, 岡山久代.(2022). スマートウォッチの光学脈波測定による心拍数の妥当性の検討. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 日本.
- 2) 西村舞, 寺澤瑛利子, 岡山久代. (2022). 月経前症候群(PMS)を有する女性の卵胞期における自律神経活動の特徴. 第10回看護理工学会

学術集会，東京，日本。

- 3) 野口百菜，壹岐聡恵，平田珠梨，内藤紀代子，海野多栄子，寺澤瑛利子，岡山久代。（2022）。異なる機種スマートウォッチが算出する活動データの比較とそれぞれの特徴。第10回看護理工学会学術集会，東京，日本。
- 4) 平田珠梨，志摩未来，寺澤瑛利子，岡山久代。（2022）。COVID-19流行下における妊婦の困り事と感染拡大状況との関連についての調査。第18回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会。オンライン，日本。
- 5) Terasawa, E., Asano, Y., Noguchi, M., Iki, S., Okayama, H.(2023). Comparison of the stress indices calculated by two models of smartwatches and examination of their validity. 19th World congress on Human Reproduction, Venice, Italy.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 岡山久代(分担者：金澤悠喜、青木真希子、寺澤瑛利子)，2022年度三菱電機株式会社共同研究，産後のメンタルヘルスのセルフモニタリングと支援方法の検討に向けた調査研究
- 2) 岡山久代(分担者：寺澤瑛利子)，2022年度かけはしTIA連携プログラム探索推進事業，アプリケーションを用いた産後のメンタルヘルスのセルフモニタリングと支援ネットワークシステム構築に向けたニーズ調査
- 3) 岡本るみ子(分担者：岡山久代、松島みどり、臼井淳美，寺澤瑛利子)、2022年度系横断R&Dプロジェクト，産後女性のための表情トレーニングプログラムの開発および精神的健康効果の検討

<その他>

- 1) 次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム 博士後期課程1年 臼井淳美

<論文>

- 1) 臼井淳美，中島久美子，吉野めぐみ，廣瀬文乃，（2022）。助産学実習

への効果的な移行を目指した母乳育児支援のシミュレーション教育の学習効果と課題. 群馬パース大学紀要. (2022年1月21日受理,印刷中).

<競争的資金獲得状況>

- 1) 臼井淳美. (分担者:中島久美子). 2020~2022年度, 基盤研究C. 保育所における母乳育児支援プログラム開発と介入効果の検証.
- 2) 岡本るみ子(分担者:岡山久代、松島みどり、臼井淳美, 寺澤瑛利子), 2022年度系横断R&Dプロジェクト, 産後女性のための表情トレーニングプログラムの開発および精神的健康効果の検討

<公的な委員会>

- 1) 日本母乳哺育学会 教育委員

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 塩見咲良

<学会発表>

- 1) 寺澤瑛利子, 浅野美礼, 塩見咲良, 今野和穂, 青木真希子, 所恭子, 龜山千里, 岡山久代. (2022). スマートウォッチの光学脈波測定による心拍数の妥当性の検討. 第10回看護理工学会学術集会. 東京, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 梅川茉優里

<公開講座>

- 1) 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 岡山久代. (2022). 大事な子宮を守ろう! ~HPVワクチンキャッチアップ接種~. T-ACT HPV ワクチンプロジェクト, ZOOMによるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 大嶋恵奈

<学会発表>

- 1) 大嶋恵奈, 金澤悠喜. (2022). 日本における産後ケアの実態とその効果の文献レビュー. 第63回母性衛生学会総会・学術集会. 神戸, 日本.

<公開講座>

- 1) 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 岡山久代. (2022). 大事な子宮を守ろう! ~HPV ワクチンキャッチアップ接種~. T-ACT HPV ワクチンプロジェクト, ZOOM によるオンラインセミナー.

#### □看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 野口百菜

##### <学会発表>

- 1) 野口百菜, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 内藤紀代子, 海野多栄子, 寺澤瑛利子, 岡山久代(2022). 異なる機種スマートウォッチが算出する活動データの比較とそれぞれの特徴. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 日本.
- 2) Terasawa, E., Asano, Y., Noguchi, M., Iki, S., Okayama, H.(2023). Comparison of the stress indices calculated by two models of smartwatches and examination of their validity. 19th World congress on Human Reproduction, Venice, Italy.

##### <公開講座>

- 1) 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 岡山久代. (2022). 大事な子宮を守ろう! ~HPV ワクチンキャッチアップ接種~. T-ACT HPV ワクチンプロジェクト, ZOOM によるオンラインセミナー.

#### □看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 平田珠梨

##### <学会発表>

- 1) 平田珠梨, 志摩未来, 寺澤瑛利子, 岡山久代(2022). COVID-19 流行下における妊婦の困り事と感染拡大状況との関連についての調査. 第18回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会. オンライン, 日本.
- 2) 野口百菜, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 内藤紀代子, 海野多栄子, 寺澤瑛利子, 岡山久代(2022). 異なる機種スマートウォッチが算出する活動データの比較とそれぞれの特徴. 第10回看護理工学会学術集会, 東京,

日本.

<公開講座>

- 1) 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 岡山久代. (2022). 大事な子宮を守ろう! ~HPV ワクチンキャッチアップ接種~. T-ACT HPV ワクチンプロジェクト, ZOOM によるオンラインセミナー.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 藤岡朱音

<公開講座>

- 1) 梅川茉優里, 大嶋恵奈, 野口百菜, 平田珠梨, 藤岡朱音, 坂本菜生, 岡山久代. (2022). 大事な子宮を守ろう! ~HPV ワクチンキャッチアップ接種~. T-ACT HPV ワクチンプロジェクト, ZOOM によるオンラインセミナー.

B. 発達支援看護学研究グループ

■准教授 涌水理恵

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 齋藤佑見子

<論文>

- 1) Wakimizu, R., Sasaki, K., Yoshimoto, M., Miyazaki, A., Saito, Y.(2021). Multidisciplinary Approach for Adult Patients with Childhood-Onset Chronic Disease Focusing on Promoting Pediatric to Adult Health Transition Interventions: An Updated Systematic Review. *Frontiers in Pediatrics*, 10, 919865.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益信託 山路ふみ子専門看護教育研究助成基金. (2021-2022). 「新生児集中治療室 (NICU) 看護者に対する End-of-Life 家族支援教育プログラムの開発」 研究代表者: 齋藤佑見子

< 社会活動 >

- 1) 東京情報大学 看護学部看護学科 非常勤講師 (家族看護学)

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 佐々木啓太

< 論文 >

- 1) Wakimizu, R., Sasaki, K., Yoshimoto, M., Miyazaki, A., Saito, Y.(2021).  
Multidisciplinary Approach for Adult Patients with Childhood-Onset  
Chronic Disease Focusing on Promoting Pediatric to Adult Health  
Transition Interventions: An Updated Systematic Review. *Frontiers in  
Pediatrics*, 10, 919865.
- 2) 佐々木啓太, 涌水理恵. 小児病棟の看護師が行う退院支援の現状と課  
題に関する文献レビュー. *日本小児看護学会誌*, 2023. (印刷中)

< 競争的資金獲得状況 >

- 1) 2021年度(後期)公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団「在宅医  
療研究への助成」(主たる研究者:佐々木啓太、助成金額:835,000円)

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 吉本光希

< 論文 >

- 1) Wakimizu, R., Sasaki, K., Yoshimoto, M., Miyazaki, A., Saito, Y.(2021).  
Multidisciplinary Approach for Adult Patients with Childhood-Onset  
Chronic Disease Focusing on Promoting Pediatric to Adult Health  
Transition Interventions: An Updated Systematic Review. *Frontiers in  
Pediatrics*, 10, 919865.

< 社会活動 >

- 1) 東京未来大学 子ども心理学部 非常勤講師(子どもの健康と安全)

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 並木瑠理江

< 学会発表 >

- 1) 並木瑠理江, 黒田葵, 荻原知美, 三戸順子, 松原千香, 小板橋俊哉

(2021). 市販の錠剤カッターを用いてタペンタドールを半割していた一例.  
第 26 回日本緩和医療学会学術大会(ポスター発表 P 6-12-10).

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益財団法人 SGH 財団 第 4 回 SGH がん看護研究助成.  
(2022-2023). 「がんで親を亡くした子どもの死別から現在までの体験に  
関する質的研究 ―緩和ケア認定看護師の見地から終末期がん患者の家  
族ケアを考える―」 研究代表者: 並木瑠理江

看護科学専攻 博士前期課程 1 年 林理佳

#### C. がん看護・緩和ケア研究グループ

■教授 水野道代

■助教 山下美智代

看護科学専攻 博士後期課程 3 年 Umami Pratiwi Rimayanti

看護科学専攻 博士後期課程 3 年 曾冬艶

看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 阿部愛子

看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 成尾美樹

看護科学学位プログラム 博士後期課程 2 年 Chen Hong

看護科学学位プログラム 博士後期課程 1 年 鴨川郁子

看護科学専攻 博士前期課程 2 年 丸山直美

看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 戴兆叡

看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 中川結衣

看護科学学位プログラム 博士前期課程 1 年 吳嘉慧

## D. 国際発達ケア:エンパワメント科学研究室

### ■教授 安梅勅江

#### □看護科学専攻 博士後期課程3年 厚澤博美

##### <学会発表>

- 1) 若松千尋, 南川雅子, 寺田由紀子, 古屋洋子, 三木祐子, 伊藤文子, 鈴木良香, 厚澤博美, 岩田洋子, 量倫(2022). 親のがんを知らされた子ども(小学生)の支援プログラム「オンライン版コアラカフェ」の活動報告ー第2報ー日本家族看護学会 第29回学術集会. 福岡, 日本.

#### □看護科学専攻 博士後期課程3年 松本宗賢

##### <論文>

- 1) Li, X., Jiao, D., Matsumoto, M., Zhu, Yantong, Zhang, J., Zhu, Zhu, Liu, Y., Cui, M., Wang, Y., Qian, M., Ajmal, A., Banu, A. A., Graça, Y., Tanaka, E., Watanabe, T., Sawada, Y., Tomisaki, E., Anme, T.(2022). Home environment and social skills of Japanese preschool children pre and post COVID-19. Early Child Development and Care. DOI: <https://doi.org/10.1080/03004430.2021.2021896>
- 2) Zhu, Zhu., Kim, C, Jiao, D., Li, X., Ajmal, A., Matsumoto, M., Sawada, Y., Kasai, T., Watanabe, T., Tomisaki, E., Tanaka, E., Ito, S., Okumura, R., Anme, T.(2022). Patterns of Movement Performance Among Japanese Children and Effects of Parenting Practices. Sultan Qaboos University Medical Journal,1(1),1-22. DOI: <https://doi.org/10.18295/squmj.1.2022.008>
- 3) Li, X., Zhu, Yan-Tong, Jiao, D-D., Sawada, Y., Tanaka, E., Watanabe, T., Tomisaki, E., Zhu, Zhu, Ajmal, A., Matsumoto, M., Zhang, J., Banu, A. A., Liu, Y., Cui, M., Graça, Y., Wang, Y-L., Qian, M-L., Anme, T.(2022). Subtyping of Internalizing and Externalizing Behaviors in Japanese

Community Based Children: A Latent Class Analysis and Association with Family Activities. *Children*,9(2),210.

DOI:<https://doi.org/10.3390/children9020210>

- 4) Zhu, Zhu, Jiao, D., Li, X., Zhu, Yan-Tong, Kim, C., Ajmal, A., Matsumoto, M., Tanaka, E., Tomisaki, E., Watanabe, T., Sawada, Y., Anme, T. (2022). Measurement invariance and country difference in children's social skills development: Evidence from Japanese and Chinese samples.

*Current Psychology*. DOI: <https://doi.org/10.1007>

[/s12144-022-03171-2](https://doi.org/10.1007/s12144-022-03171-2)

- 5) Jiao, D., Watanabe, K., Sawada, Y., Matsumoto, M., Ajmal, A., Tanaka, E., Watanabe, T., Sugisawa, Y, Ito, S., Okumura, R., Kawasaki, Y., Anme, T.. (2022). Social Relationships and Onset of Functional Limitation Among Older Adults with Chronic Conditions. *Sultan Qaboos University Medical Journal*,1(1),1-20. DOI:

<https://doi.org/10.18295/squmj.5.2022.035>

- 6) 松本宗賢, 李响, 焦丹丹, 張瑾睿, 王妍霖, 乾美玲, 朱珠, 朱言同, 劉洋, 崔明宇, Ajmal, A., Graça Y., Banu, A. A., 澤田優子, 田中笑子, 富崎悦子, 渡邊多恵子, 安梅勅江(2022). COVID-19 感染拡大下の育児環境の特徴ーパネルコホート研究を用いた 2019 年度と 2020 年度の比較ー. *厚生指標*,69(12),31-37.

<学会発表>

- 1) Qian, M., Li, X., Jiao, D., Matsumoto, M., Zhang, J., Zhu, Zhu., Liu, Y., Cui, M., Apolna, A., Graca, Y., Wang, Y., Zhao, R., Yang, M., Yuan, X., Wang, Mengxuan., Shrestha, S., Anme, T. (2022). The relationship between oral function and mortality among Japanese old adults: A 6-year survival analysis. September 29. Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.

- 2) Wang, Y., Matsumoto, M., Jiao, D., Zhu, Zhu, Li, X., Zhang, J., Cui, M., Liu,

- Y., Zhu Yantong., Graca, Y., Apolna, A., Qian, M., Zhao, R., Yang, M., Yuan, X., Wang, Mengxuan., Shrestha, S., Anme, T. (2022). A stable sufficiently or positively changing home-rearing environment contributes to young children's self-control skills. September 29. Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 3) Zhang, J., Jiao, D., Li, X., Matsumoto, M., Zhu, Zhu, Zhu, Yantong, Liu, Y., Cui, M., Apolna, A., Graca, Y., Qian, M., Wang, Y., Zhao, R., Yang, M., Yuan, X., Wang, Mengxuan, Shrestha, S., Anme, T. (2022). Association between a change in children's social interaction in the COVID-19 pandemic and children's behavioral development. September 29. Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 4) Afsari, A., Jiao, D., Matsumoto, M., Zhu, Zhu, Li, X., Zhang, J., Cui, M., Liu, Y., Zhu, Yantong, Graca, Y., Wang, Yanlin, Qian, M., Zhao, R., Yang, M., Yuan, X., Wang, Mengxuan, Shrestha, S., Anme, T. (2022). The effect of social interaction on adolescents' sleep in Japan: A 3-year longitudinal study. September 29. Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 5) Li, X., Jiao, D., Matsumoto, M., Zhu Yantong, Zhang, J., Zhu Zhu, Liu, Y., Cui, M., Wang, Yanlin, Qian, M., Ajmal, A., Afsari, A., Graca, Y., Tanaka, E., Watanabe, T., Sawada, Y., Tomisaki, E., Anme, T. (2022). Social skills of Japanese preschool children pre- and post- COVID-19. September 29. Tsukuba Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.
- 6) Cui, M., Matsumoto, M., Jiao, D., Zhu, Zhu, Zhu, Yantong, Li, X., Zhang, J., Liu, Y., Graca, Y., Afsari, A., Wang, Yanlin, Qian, M., Zhao, R., Yang, Mengjiao, Yuan, X., Wang, Mengxuan, Shrestha, S., Anme, T. (2022). Physical frailty and cognitive function: A moderated mediation model of social relationships and activities of daily. September 29. Tsukuba

Global Scientific Week Conference, Tsukuba, Japan.

## E. 地域健康・公衆衛生看護学研究グループ

■教授 山海知子

■准教授 大宮朋子

■助教 菅谷智一

□看護科学学位プログラム 博士後期課程3年 工藤あずさ

<論文>

- 1) Kudo, A., Deguchi, N., Omiya, T., Sankai, T. Treatment Engagement: A Concept Analysis. (In press). Journal of International Nursing Research.

<学会発表>

- 1) Kudo, A., Deguchi, N., Omiya, T., Sankai, T. Treatment Engagement: A Concept Analysis. (2022). Sigma's 33rd International Nursing Research Congress.
- 2) Kudo, A., Deguchi, N., Omiya, T., Sankai, T., Sugaya, T. (2022). Factors Related to Medication Adherence in First Episode Psychosis: A Literature Review. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 工藤あずさ. 山路文子専門看護教育研究助成基金 2022年度研究助成 「薬物療法開始1年までの初回エピソード精神病患者とその家族を対象とした服薬アドヒアランス向上のための看護介入プログラムの開発と評価」
- 2) 工藤あずさ. フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団 令和4年度研究助成 「初回エピソード精神病患者に対する訪問看護師・外来看護師による服薬支援に関する研究」

## □看護科学学位プログラム 博士後期課程 2年 清水幹子

### <社会活動>

- 1) 公益社団法人、東京都助産師会、理事
- 2) 一般社団法人、ドゥーラ協会、ドゥーラ養成講座講師
- 3) 東京通信大学、非常勤講師(母性看護学Ⅰ,Ⅱ)
- 4) 母子保健研修センター助産師学校、非常勤講師
- 5) 日本赤十字社助産師学校、非常勤講師
- 6) 株式会社ママの素スーパーバイザー 助産師相談総括
- 7) 一般社団法人 東京府中 FM ラジオパーソナリティ[アイノカタチ.chu][矢島助産院チャンネル]
- 8) TreeChild 合同会社 COO

### <講演・講座>

- 1) 「ラブサポーター淳子のおとなお悩み相談所」2022.03.30(鳥越アズーリ FM 出演)
- 2) 「女性に生まれてよかった 女性にお贈りする性教育」2022.4.26(オンライン講座)
- 3) 「夫婦間のセックスレス」2022.7.6/7.7(ベビカム株式会社 オンライン番組出演)
- 4) 「性教育」2022.10.7(東京都西小岩小学校 5年生)
- 5) 「包括的性教育のススメ～お子さん編～」2022.10.22(フェムテック東京 2022 イベント会場)
- 6) 「命の授業」2022.11.24(東京都練馬区東中学校 2年生)
- 7) 「保護者ができる我が家の性教育」2023.1.13(東京都府中市青少対第三地区委員会講演会)
- 8) 「子どもが幸せになる性と生のお話」2023.12.9(森のようちえん 保護者向け)
- 9) 「いのちのお話」2023.2.9(東京都府中市立第7小学校 4年生)

□看護科学学位プログラム 博士後期課程2年 戸津有美子

<論文>

- 1) 戸津有美子, 渡邊香. (2022). 無痛分娩における分娩第1期の進行を判断する助産師の非侵襲的観察項目: 質的研究. 日本母子看護学会誌(掲載前)

<学会発表>

- 1) 戸津有美子, 渡邊香. (2022). COVID-19 発生初期の関東圏の助産所における産前産後の院内感染対策の実態調査. 第6回日本産前産後ケア・子育て支援学会・学術集会, Web開催
- 2) 戸津有美子, 中理恵, 渡邊香. (2022). 思春期のヘルスリテラシーの検討; 中学校三年生に対する介入前後の某市全数調査. 第41回日本思春期学会総会・学術集会, Web開催
- 3) 中理恵, 渡邊香, 戸津有美子. (2022). 思春期の自尊感情の検討; 中学校三年生に対する介入前後の某市全数調査. 第41回日本思春期学会総会・学術集会, Web開催
- 4) 渡邊香, 中理恵, 戸津有美子. (2022). 思春期の性意識の規定要因の検討; 中学校三年生に対する愛乳前後の某市全数調査, Web開催

□看護科学学位プログラム博士後期課程1年 氏家寿美子

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 葛谷英寛

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 宮崎星

<学会発表>

- 1) Miyazaki, A., Omiya, T., Deguchi, N. (2022). Psychological effects and motivations among public health nurses during the COVID-19 pandemic in Japan. Community nursing towards sustainable health. Online, Sweden.
- 2) Miyazaki, A., Omiya T., Deguchi, N., Sankai, T. (2022). Distress and

conflict encountered among Japanese Public Health Nurses on the front line of epidemic prevention in community. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Hybrid, Taiwan.

- 3) Omiya, T., Deguchi, N., Miyazaki, A., Sankai, T. (2022). Transitions in Sense of Coherence among Middle-Aged Women with Adolescent Children before and after the onset of COVID-19 Pandemic -. Community nursing towards sustainable health. Online, Sweden.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益財団法人日本科学協会・笹川科学助成。(2022)。「パンデミック禍における保健所保健師の苦悩と支援策の探究—個人・組織のレジリエンスを高めるために—」。研究代表者：宮崎星
- 2) 俱進会・俱進会助成。(2022)。「ウィズコロナ時代における地域の危機管理能力強化ならびに保健師と住民との協働に関する研究」。研究代表者：宮崎星

<論文>

- 1) Wakimizu, R., Sasak,i K., Yoshimoto, M., Miyazaki, A., Saito, Y. (2022). Multidisciplinary Approach for Adult Patients with Childhood-Onset Chronic Disease Focusing on Promoting Pediatric to Adult Healthcare Transition Interventions: An Updated Systematic Review. *Frontiers in pediatrics*, 10, 919865.  
<https://doi.org/10.3389/fped.2022.919865>.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 宇佐美絵理

<論文>

- 1) Usami, E., Kanazawa, Y., Kawano, A. (2022). Can psychological status and stress biomarkers in pregnancy predict postpartum depression? *International Journal of Nursing and Midwifery*, 14(4), 81-87. doi:

10.5897/IJNM2022.0500

<学会発表>

- 1) 宇佐美絵理, 金澤悠喜, 川野亜津子. (2022). バイオマーカーを用いた妊娠期からの産後うつスクリーニングプログラム開発に関する検討. 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会. オンライン, 日本.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程2年 矢ヶ部未奈

<学会発表>

- 1) 菅谷智一, 高松栞, 矢ヶ部未奈. (2022). キャンパス内における森林散策の効果. 日本森林保健学会第12回学術集会, 東京.
- 2) 高松栞, 矢ヶ部未奈, 菅谷智一. (2022). 気分状態からメンタルヘルスをアセスメントすることの検討—看護大学生を対象として—. 日本看護研究学会第48回学術集会, 松山.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 高松栞

<学会発表>

- 1) 菅谷智一, 高松栞, 矢ヶ部未奈. (2022). キャンパス内における森林散策の効果. 日本森林保健学会第12回学術集会, 東京.
- 2) 高松栞, 矢ヶ部未奈, 菅谷智一. (2022). 気分状態からメンタルヘルスをアセスメントすることの検討—看護大学生を対象として—. 日本看護研究学会第48回学術集会, 松山.

□看護科学学位プログラム 博士前期課程1年 Lim Kahan

F. 療養調整看護学研究グループ

■教授 日高紀久江

■准教授 柴山大賀

■准教授 目麻里子

■助教 阿部吉樹

■助教 工藤理恵

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2年 中田えいみ

<学会発表>

- 1) 中田えいみ, 柴山大賀. (2022). 在留中国人糖尿病患者の食事療法の教材開発に向けたニーズ調査. 第1回 JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム研究発表会. 2022年3月22日. ポスター.

<競争的資金>

- 1) 令和4年度次世代研究者挑戦的研究プログラム採択

□看護科学学位プログラム博士後期課程 1年 平栗智美

□看護科学学位プログラム博士前期課程 2年 饒小妹

□看護科学学位プログラム博士前期課程 2年 古田敦子

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1年 渡部幸

<論文>

- 1) 小池朝子, 相場繁, 野口訓彦, 渡部幸, 大堀昇(2022). 慢性疾患を持つ在宅療養患者における一包化調剤の背景要因, 医療創生大学研究紀要, 35(2), 3-12.
- 2) 小池朝子, 角田智美, 相場繁, 渡部幸, 野口訓彦, 大堀昇(2022). 看護系大学における助手の職務上の課題に関する文献検討, 医学と生物学, 162(3), 1-13.

## G. 国際看護学研究グループ

■教授 竹熊カツマタ麻子

■助教 トゴバタラ・ガンチメゲ

■助教 福澤利江子

□看護科学専攻博士後期課程 3年 籠島政江

□看護科学専攻博士後期課程 3年 Munguntuul Enkhbat

<論文>

- 1) Munguntuul, E., Ganchimeg, T., Oyunchimeg, E., and Takekuma, A. (2022). Handwashing Practice among Elementary Schoolchildren in Urban Setting, Mongolia: A School-Based Cross-Sectional Survey. Journal of Environmental and Public Health. DOI: 10.1155/2022/3103241

□看護科学専攻博士後期課程 3年 金城一平

□看護科学専攻博士後期課程 3年 中島久美子

□看護科学専攻博士後期課程 3年 宮原めぐみ

<学会発表>

- 1) 宮原めぐみ, Asako Takekuma Katsumata. (2022). 日本におけるアドバンス・ケア・プランニング: 概念分析. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 日本.

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 見延充美

<学会発表>

- 1) 飯倉充美, 田村晴香, 宮本翔平. (2022). 看護師へのマインドフルネス介入に関するシステマティックレビュー. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 日本.

<競争的資金>

- 1) 飯倉充美, 田所潤子, 菅原大地, 齋藤佑見子, 川口孝泰. 2022~2025年度 基盤研究(C). 女性消防吏員の職務継続に関する基礎研究.
- 2) 高田大輔, 飯倉充美. 2022年度. 公益財団法人日本生命財団 実践的

研究助成. 僻地に住む独居高齢者に対する社会的交流促進のアウトリーチ支援.

□看護科学学位プログラム博士後期課程 3年 Munkhbaatar Bolorchimeg

□看護科学学位プログラム博士後期課程 2年 椎葉奈子

<競争的資金>

- 1) 令和4年度筑波大学社会貢献プロジェクト 採択

<社会活動>

- 1) 令和4年度筑波大学社会貢献プロジェクト 多国籍子育て支援「にほんごで おしゃべり！」

<その他>

- 1) 多国籍子育て支援「にほんごで おしゃべり！」. (2023). 一般社団法人減災サステナブル技術協会. 防災・減災×SDGs 賞(アカデミー&ジュニアアカデミー部門)入賞. (一般社団法人つくば市国際交流協会と共同受賞)

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 2年 加固蒼一郎

□看護科学学位プログラム 博士前期課程 1年 須田祥子

<競争的資金>

- 1) 令和4年度筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)海外武者修行支援プログラム支援金 採択

□看護科学学位プログラム博士前期課程 1年 小倉円香

<学会発表>

- 1) 小倉円香, 菅谷智一. (2022). 表情およびマスク着用によるパーソナル・スペースの違い. 第16回日本看護教育研究学会学術集会, 東京, 日本.

## H. 看護科学専攻

### ■専攻長 水野道代

### □看護科学専攻博士後期課程3年 田野将尊

#### <学会発表>

- 1) 松山妙子, 三浦由紀子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 高見沢愛弓, 鴫田美奈子, 福田敦子, 森由美子, 橋本佳美, 大賀一郎, 武下佳代. シームレスな卒後教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究—看護大学4年生と新卒看護師の比較から—. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3日/4日, 広島.
- 2) 田野将尊, 小倉圭介, 菅谷智一, 水野道代, 森千鶴. 再入院統合失調症者に対する実行機能向上プログラムの有用性. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3日/4日, 広島.
- 3) 三浦由紀子, 松山妙子, 藤村朗子, 田野将尊, 堀田昇吾, 高見沢愛弓, 鴫田美奈子, 福田敦子, 森由美子, 橋本佳美, 大賀一郎, 武下佳代. 看護基礎教育における看護技術内容の検討—新卒看護師のアンケート調査を通して—. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3日/4日, 広島.
- 4) 日比野亮太, 齋藤虎生, 高橋龍佑, 高橋克知, 齋藤杏奈, 米倉秀紀, 磯崎莉緒, 鳥越沙弥, 野坂優斗, 松田玲, 小川賀恵, 田野将尊, 村松仁. サージカルマスク着用による表情認知への影響. 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月3日/4日, 広島.

#### <競争的資金獲得状況>

- 1) 田野将尊. 精神科救急・急性期病棟看護師のための地域生活の視点を持った看護プロトコルの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金. 若手研究. 2019年度-2022年度

#### <社会活動>

- 1) 明星大学人文学部福祉実践学科 非常勤講師

- 2) 東都大学沼津ヒューマンケア学部 非常勤講師
- 3) 筑波大学医学群看護学類 非常勤講師
- 4) 日本腎不全看護学会査読委員
- 5) 第 42 回日本看護科学学会学術集会交流集会「看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方」. 2022 年 12 月 3 日/4 日, 広島.

<その他>

- 1) 田野将尊 (2022). メディカコンクール 第 112 回看護師国家試験対策テスト第 1 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 2) 田野将尊 (2022). メディカコンクール 第 112 回看護師国家試験対策テスト第 2 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 3) 田野将尊 (2022). メディカコンクール 第 112 回看護師国家試験対策テスト第 3 回, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成
- 4) 田野将尊 (2023). メディカコンクール 2024 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト, メディカ出版, 大阪. 問題・解答・解説作成

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 大出順

<論文>

- 1) 大森美保, 大出順, 佐藤亜月子, 志田久美子, 小薬祐子. (2022). 看護管理者が認識する看護の専門職性, 帝京科学大学紀要. 18(1).65-74.
- 2) 大森美保, 志田久美子, 大出順, 佐藤亜月子, 小薬祐子. (2022). コロナ禍における「基礎看護学実習Ⅱ」に関する学生の学び-代替実習としての学内実習を実施して-, 帝京科学大学教育・教職研究. 7(2).137-146.
- 3) 恋水諄源, 山本千明, 向山和加乃, 山本真世, 中村紳一郎, 大出順. (2023). 倫理コンサルテーションチーム活動が医療従事者の倫理的行動に与える効果, 臨床倫理. 11(1).印刷中

<学会発表>

- 1) 副枝恵美, 大出順. (2022). A 病院における看護倫理教育プログラムの効果の検討～2019 年と 2020 年の道徳的感受性と倫理的行動の比較～. 日本看護倫理学会第 15 回年次大会. 静岡, 日本.

<社会活動>

- 1) 日本看護倫理学会 論文査読担当
- 2) 日本看護倫理学会 選挙管理委員
- 3) 第 31 回東京都看護協会東部地区支部看護研究実践報告会プログラム, 講評

<その他>

- 1) 大出順. (2022). 放送大学 看護師国家試験支援ツール、国家試験過去問解説作成(4問担当)

## IV. 大学院生支援

### 1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数	
		春学期	秋学期
博士前期	14名	0名	11名
博士後期	5名	0名	2名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2023年1月末現在

	在校生数	休学者数
博士前期課程1年	14名	0名
2年	13名	1名
博士後期課程1年	5名	1名
2年	8名	3名
3年	18名	0名
その他		
研究生	0名	
退学者	1名	

### 2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施

4月6日(水)14時30分より共同利用棟B講義室1において対面で実施した。

2) 新入生歓迎会の実施

COVID-19のため中止とした。

3) 研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と

## 支援対象に関する審議

12月20日〆切にて募集を行い、3名から4件の申請があった。2023年1月10日の教育会議にて審議した。

## 4)看護科学専攻・学位プログラムにおける「学生支援対応チーム」<sup>注1)</sup>としての活動

- a. 様々な問題を抱えた学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施：随時（できるだけ複数人体制での対応を心がけた）
- b. 休学および復学志望者への面接・相談：随時（大学院生支援委員長）
- c. 指導および就学困難なケースへの支援と面接等への同席：随時
- d. その他

## 5)2022年度修了生キャリアアンケート調査の実施

8月から9月にかけて、2020年度、2021年度修了生を対象として在学時及び修了後の状況即ちキャリアに関するアンケート調査を実施した。その結果、看護科学学位プログラム博士後期課程修了生6名、同じく博士前期課程修了生16名から回答を得た。

博士後期課程修了生から、在学中は全体的に満足度が高く、大学院での講義や実習、研究に力を入れていたものが多かった。しかし、学会発表や論文執筆に関しては約半数であった。特に、国際交流に関して力を入れていた者が少なかったことは課題と考えられる。修了後は、回答者全員が大学教員となり、在学中で学んだ研究や教育の技法、研究を続けていくための根気強さを身につけ活躍していた。また、修了生のほとんどは修了生同志など修了後の情報交換の機会などを希望していた。

博士前期課程修了生から、在学中は、科目の履修や実習、研究に力を入れていただけでなく、関心領域についての自主的な学習に積極的に力を入れていたことがわかった。社会貢献や国際交流に関しては、あまり力を入れていない傾向であった。修了後は、博士後期課程への進学や大学教員になった者もいたが、臨床現場で勤務している者が多かった。就職先の選択にはやりたい仕事ができるか、

大学院での学びが生かせるかを重視していた。修了生との情報交換などの継続している者は多く、交流の場を希望している傾向がみられた。また、博士後期課程への進学などのキャリアプランを考えている者も多かった。

今後、修了生のアンケート調査を継続すると同時に、修了生からの要望のあった修了生の情報交換や交流の場を設ける準備や修了生を受け入れている職場の聞き取り調査などを行う予定である。

## 5) その他の活動

- a. TA、TF、RA の時間配分
- b. 人間総合科学研究科長賞、看護科学専攻長賞候補者の推薦順位付け  
令和3年2月時の看護科学専攻・学位プログラム教育会議において、「看護科学専攻長賞の申し合わせ」に則り、受賞候補者として指導教員より推薦された前期課程修了予定者2名、後期課程修了者2名から、人間総合科学研究科長賞候補として前期、後期各1名、また、看護科学専攻長賞として前期、後期各1名を選出し、会議出席者より同意を得た。
- c. 各種受賞候補者(学長賞、優秀 TF 賞、茗溪会賞、校友会賞等)の募集と順位付け)
- d. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信
- e. ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア委員<sup>注2)</sup>(大学院生支援委員長)としての活動

注1)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

(1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。

・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。

(2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。

・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。

(3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。

- ・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。
- ・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。

(具体的には、 a) 学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b) 復学のための具体的な支援策の構築 c) 留年等により担任が変わる場合には、新しい担任と連携を図る d) 休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図るなど)

注2)平成28年4月より「障害者差別解消法」の施行を受けて、大学全体として障害者等に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設され、大学院生支援委員長が担当委員となっている。

### 3. 今後の課題

筑波大学は、平成23年度より学生に対して直接指導を行う指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学専攻においては看護科学専攻長と大学院生支援委員から構成されている。今後は、これまでの活動を維持し、さらにより一層大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要がある。具体的には学生への支援対応チームからの一斉メールの配信、大学院生支援委員相互の情報交換を活発化し、事例に対して委員が個別に対応することはできる限り避け、複数人の教員によってチームで対応する方針を再確認する。今度の課題として、異なる文化的背景をもち日本語でのコミュニケーションが十分とは言えない留学生が今後増加すると考えられるため、支援体制をどのように構築するか、議論する必要がある。

特に、今年度はCOVID-19の感染拡大によって、緊急事態宣言が発令され、4月1日より大学への入構が禁止されたため、新入生オリエンテーション並びに講義は、授業動画によるオンデマンド配信となり、新入生歓迎会も中止となった。春学期の間は大学への入構制限が継続され、新入生にとって一堂に会する機会を失い、指

導教員や所属する教室の構成員とのやり取りのみとなり、精神的につらい日々を送っていたことは想像に難くない。秋学期から対面授業が中心となり春学期よりは落ち着いた感があるが、新入生、在校生ともに昨年度までの学生と比較して厳しい環境に置かれたことは明白である。このように心身の健康の危機的状態において、いち早く学生の抱えるストレスや想いを指導教員とともに受け止め対応していく体制作りが必要であると考え。

この他、次年度においても、TA,TF,RAの時間配分について学生が学業を全うするのに障害とならないよう継続して指導教員とともに調整を行うこと、訂正され点数化により客観化された選考基準に基づいて、看護科学専攻長賞並びに人間総合科学研究科長賞を選出することは継続する。今年度はCOVID-19のために中断したが、学会等への参加時の旅費支援は、次年度はできることなら再開したい。

大学院生支援委員会として、今後も大学院生が学業、人間関係等に悩みを抱えるも相談することを躊躇し、大学院生が学業や人間関係等の悩みを相談できず孤独に陥ることを予防するため、できるだけ迅速かつ適切な支援を今後も継続実施していく方針である。

## V. 社会貢献と国際交流

### 国際交流

令和 4 年度も新型コロナウイルス感染症の拡大により海外渡航の制限がある状況で教職員や学生の海外派遣や海外留学がなかなか進まない一年となった。しかしながら、今年度も本学の協定校であるイリノイ大学の企画によるオンライン留学の機会も提供され、学類生の参加があった。看護科学学位プログラムにおいては、「武者修行」奨学金に応募、内部資金を獲得して米国イリノイ州とウィスコンシン州に Faith Community Nursing, Spiritual Care,そして Grief Care を学びに 2 週間の学びの経験をした大学院生もみられた。

国際協定について、ベトナムのナムディン看護大学との協定締結から 5 年が経過し、協定更新の承認がなされた。3 月には本学の体育専門学群との部局間協定を結んでいたシーナカリンウィロート大学(タイ王国)が看護学類との交流を希望しているという申し出があり、同大学から学部長と国際担当事務局長の訪問を受け入れた。今後の全学レベルの国際交流に期待したい。